



楠の葉新聞

【先駆者の言葉の雫】

他人から『できますか?』と聞かれたら、とりあえず『できます』と答えちゃうんだよ。その後で頭が痛くなるくらい考え抜けば、大抵のことはできてしまうものなんだ。

円谷英二／特撮映画監督

ウルメイワシの漁獲量

日本一だった延岡市

イワシの漁獲量が数年前まで延岡市は日本一だったことをご存知ですか。現在は全国で2位の位置にいるそうです。イワシの漁獲量と関わってもなかなかピンとこないのですが、この話を聞いて「へえ」という言葉だけが出ました。

「イワシか、嫌いではないし酒のつまみとしてむしろ好きな魚」ではある。「延岡って魚が美味しい町だけイワシに力を入れていたかなあ」と考えました。調べてみた、「あげみ」「オイルサーディン」「ちりめん」「丸干し」気にすればいくらでも出てくる。実はイワシは生活に入り込んでいた魚だった。そういえば延岡には有名な蒲鉾屋さんもある。知らないって損してる気がした。早速、延岡のお土産品を調べてみた。マイワシを使ったオイルサーディン、北浦にある揚げ物のお店のアンチョビ。すでに名物や特産品になっているものもある。もっとアンテナを高く、視点を鋭く見ていく必要があると感じた。知れば知るほど知らないことが出てくる。延岡は奥が深く面白。

落語家になりたかった……

下の写真の落語家をご存知の方はいらっしゃいますか? 2代目桂枝雀師匠です。20年ほど前に亡くなられています。私が落語家になりたいと考えた張本人です。落語家になるには、師匠に弟子入りして「見習い」「前座」



「二つ目」「真打」と昇進していつて十数年かけて一人前になるそうです。中学3年の進路相談で落語家になる夢を打ち明けました。十数年かかることは承知の上で東京に行きたい。落語家に弟子入りしたいと話す学歴が大事だ高校に行つてからでも遅くはない。と言われ高校に進学しました。甲子園にそこがれ高校野球に3年間打ち込み、3年の進路相談、満を持して落語家へのあこがれを力説すると担任からは「今からは遅いせめて中学卒業で弟子入りしないと」との言葉。だからそうしようと思つていたら、高校出てからにしろと言われて……。ハメられた。中3の時の学担と親に騙された。気付いても後の祭り。その後のことについては以前に岡中ホームページのキャリア教育のコーナーに書かせていただきました。日本の伝統芸能「落語」今でもあの時弟子入りしていたら……と思うこともありませんが、こうして落語について発信することも落語を愛する者の役割の一つかと思えます。「隣の家に壁ができたってねえ」「へえ」日本語の面白さ、言葉の巧みさを知ってもらえると嬉しいです。枝雀師匠の落語はユーチューブでも見ることが出来ます。たぶん合法で

◇ 成功体験と成就感 ◇

成功体験が大事だという話を聞きますが、私は少し考えが違います。そもそも成功と失敗の違いは何か。どこで線引きされるのか。「私、失敗しないので」という決め台詞のドラマがあります。失敗しないとはどういうことか。失敗の反対は成功なのか。屁理屈ととられるかもしれませんがそんなことを考えています。私は物事がうまくいくことではなく、本人がいかに納得したかではないかと思つています。長年、部活動の指導をしてきて感じることもありますが、優勝したから部員全員が成功体験を味わっているわけではありません。試合に出られずに悔しい思いをしている控え選手もいれば満足いくプレーができてモヤモヤしている選手もいます。そうであれば私たちの役目は選手一人一人にどのような目標役割を見出してやるかだと思つています。これは学校生活においても学担として同じことが言えますし、社会に出たらそのような企業や社会の中で生活していくことが充実した生き方につながるのではないかと考えます。または自分自身で目標や役割を見つけていくことができる力を身につけることも重要です。もちろん成功することやうまくいくことも大事です。ただ生活していてもうまくいかないことの方が多いため事実です。納得のいく生き方、生活を送れるような大人に成長させられるための関わりを考えていきたいと思つています。